



2025年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年5月14日

上場会社名 株式会社ユニバーサルエンターテインメント 上場取引所 東
コード番号 6425 URL <https://www.universal-777.com>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岡田 知裕
問合せ先責任者 (役職名) 専務執行役員CFO (氏名) 佐藤 暢樹 TEL 03-5530-3055
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年12月期第1四半期の連結業績（2025年1月1日～2025年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年12月期第1四半期	27,280	△20.8	△2,512	—	△12,319	—	△7,556	—
2024年12月期第1四半期	34,427	△3.0	4,023	△15.5	5,575	76.5	3,450	17.1

(注) 包括利益 2025年12月期第1四半期 △13,774百万円 (—%) 2024年12月期第1四半期 10,745百万円 (0.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年12月期第1四半期	△97.36	—
2024年12月期第1四半期	44.53	44.53

(注) 2025年12月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年12月期第1四半期	603,937	355,956	58.9	4,593.69
2024年12月期	632,795	369,731	58.4	4,771.28

(参考) 自己資本 2025年12月期第1四半期 355,956百万円 2024年12月期 369,731百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年12月期	—	30.00	—	0.00	30.00
2025年12月期	—	—	—	—	—
2025年12月期（予想）	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
2025年12月期（予想）期末配当は、未定としております。

3. 2025年12月期の連結業績予想（2025年1月1日～2025年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	150,000	18.7	16,000	429.1	1,000	—	800	10.32

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年12月期 1 Q	80,195,000株	2024年12月期	80,195,000株
② 期末自己株式数	2025年12月期 1 Q	2,704,139株	2024年12月期	2,704,096株
③ 期中平均株式数	2025年12月期 1 Q	77,490,874株	2024年12月期 1 Q	77,490,904株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (4) 連結業績予想について」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
(4) 連結業績予想について	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(会計方針の変更)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9
(4) 追加情報	10
(5) 重要な後発事象	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

遊技機事業では、スマートパチスロの普及を背景にパチスロ機が堅調に推移した一方、販売台数は前年同期比で減少し、採算性の観点からも厳しい状況となり、営業損失を計上しました。統合型リゾート(IR)事業では、オカダ・マニラにおけるVIPセグメントの縮小と、インバウンド客の減少が響き、ゲーミング・非ゲーミングの両事業で前年同期を下回る実績となりました。特にVIPローリングチップ取扱高が大きく落ち込んだほか、マスゲーミングやホテル・飲食事業でも来場者数の減少が影響しました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は、27,280百万円（前年同期比 20.8%減）、営業損失は2,512百万円（前年同期 営業利益4,023百万円）、経常損失は12,319百万円（前年同期 経常利益5,575百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は7,556百万円（前年同期 親会社株主に帰属する四半期純利益3,450百万円）となりました。なお、事業セグメント別の業績は以下のとおりであります。各業績数値はセグメント間売上高又は振替高を調整前の金額で記載しております。

①遊技機事業

当第1四半期連結累計期間における遊技機事業の売上高は8,750百万円（前年同期比 36.9%減）、営業損失は1,199百万円（前年同期 営業利益3,929百万円）となりました。

遊技機業界では、スマートパチスロの導入が順調に進み、パチンコホールの期待に応える好調な稼働を見せ、パチスロ機の市場環境は良好です。パチンコ機においては、ゲーム性の幅が広がったラッキートリガー(LT)搭載機やスマートパチンコの普及が緩やかに進む中で、一定の評価を得るヒット機種が登場し、市場環境の活性化に期待が持てる状況となりました。

かかる状況下で当社は、人気アニメの世界観を再現した『スマスロ シャーマンキング』、市場で高い評価を得ている『沖ドキ! ゴージャス』の増産販売を行いました。パチンコ機においては、株式会社バンダイナムコエンターテインメントの国民的野球ゲームをモチーフとした『Pハネモノ ファミリースタジアム』、アジアを中心に大ヒットを記録した純愛ドラマの初の遊技機化となる『P愛の不時着』の販売を行いました。

②統合型リゾート(IR)事業

当第1四半期連結累計期間における統合型リゾート(IR)事業の売上高⁽¹⁾は18,378百万円（前年同期比 9.8%減）、営業利益は331百万円（前年同期比 81.3%減）となりました。また、調整後EBITDA⁽²⁾は4,605百万円（前年同期比 23.6%減）となりました。

当社グループが運営する統合型リゾート施設「オカダ・マニラ」では、第1四半期は前年同期を下回る実績となりました。フィリピン観光省の発表によると、当該期間において、オカダ・マニラの主要顧客である韓国からのインバウンド客数が前年同期比13.9%減、中国からの客数は33.7%減と落ち込んでいます。

ゲーミング事業では、前年に続いてVIP客のローリングチップ取扱高が落ち込んだ他、フィリピンへのインバウンド客数の減少が見受けられる中で、マスマーケットにおけるゲーミングマシンでも前年同期比減となりました。また、ホテル・飲食事業においても、施設訪問客数の減少に伴い減収となりました。

(1) 売上高は、総売上高からゲーミング税及びジャックポット費用を控除したもの

(2) 調整後EBITDA = 営業損益 + 減価償却費 + その他の調整項目

③その他

当第1四半期連結累計期間におけるその他の売上高は130百万円（前年同期比 15.0%減）、営業利益は179百万円（前年同期比 56.5%増）となりました。

メディアコンテンツ事業においては、App Store・Google Playにてさまざまな機種のシミュレーターアプリを配信しておりますが、当第1四半期には新規の配信はありませんでした。月額制サービスの「ユニバ王国」及び基本プレイ無料のソーシャルカジノゲーム「スロットストリート」では、ゲーム内イベントを常時開催し、ユーザーの新規獲得と満足度向上に努めております。楽曲配信においては、主要サイトApple Music・Spotify・YouTube Musicをはじめとする24サイトへ2タイトルの提供を行いました。

(2) 財政状態に関する説明

当四半期連結会計期間末における財政状態については、以下のとおりです。

総資産の額は、円高ペソ安、円高ドル安の進行による減少、現金及び預金、受取手形及び売掛金の減少、貸倒引当金(長期)の増加もあり、前連結会計年度末に比べて28,858百万円減少し603,937百万円となりました。

総負債の額は、円高ペソ安、円高ドル安の進行による減少、未払費用、流動負債(その他)が減少したため、前連結会計年度末に比べて15,083百万円減少し247,980百万円となりました。

純資産の額は、利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純損失、円高ペソ安の進行による為替換算調整残高が

減少したこともあり、前連結会計年度末に比べて13,774百万円減少し355,956百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

①遊技機事業

遊技機業界における市場環境は、パチスロ機においてはスマートパチスロの設置シェアが順調に拡大し、今後も好調な稼働を維持すると予測されます。また、ノーマル機に新たな可能性をもたらすボーナストリガー(BT)搭載機の登場により遊技の多様性が向上し、稼働のさらなる底上げが期待されている状況です。パチンコ機においても、スマートパチンコを対象にラッキートリガー(LT)搭載機のゲーム性をさらに拡充した新基準LT3.0プラスの市場投入を予定しており、新たなヒット機種の登場による市場環境の活性化が期待できます。

第2四半期は、初代「SLOT魔法少女まどか☆マギカ」を彷彿とさせるゲーム性が魅力の『スマスロ マギアレコード 魔法少女まどか☆マギカ外伝』、名機「緑ドン VIVA! 情熱南米編」が進化を遂げて復活した『スマスロ 緑ドン VIVA! 情熱南米編 REVIVAL』の市場投入、A+ATタイプの最上位スペック『スマスロ ギルティクラウン2』の販売を開始しています。また、ラッキートリガーを搭載したGODシリーズ最新作『Pアナザーゴッドハーデス-獄炎-』の市場投入を開始しています。

当社は引き続き、独自性のある魅力的な遊技機創出に努め、遊技機業界全体の活性化に貢献するとともに、販売シェアの拡大に努めてまいります。

(ご参考) 2025年12月期 パチスロ・パチンコ販売台数

	第1四半期	第2四半期(受注済)
販売台数(台)	18,623	35,000

(注) 第1四半期の実績については、「2025年12月期 第1四半期決算補足資料」

(<https://www.universal-777.co.jp/ir/library/result/>) をご参照ください。

②統合型リゾート(IR)事業

オカダ・マニラでは、人材採用とトレーニングを通じてゲーミング事業におけるマーケティング機能の強化を図ることで、フィリピン国内顧客層の拡大、及び日本・韓国・その他東南アジア各国からの観光客の誘致を目的としたマーケティング活動を可能にしています。加えて、2024年に新たに稼働を開始したフィリピン国内向けオンラインゲーミングのプラットフォームの浸透、会員プログラム「REWARD CIRCLE」を通じたプロモーション活動を進めてまいります。

非ゲーミング事業においても、当第1四半期に6年連続でフォーブス・トラベルガイドの5つ星を獲得、2025年のアジアゲーミングアワードでは、統合型リゾートとしての表彰、またオカダ・マニラの環境貢献活動に対し持続可能性に関する表彰を受けました。引き続き、定期的なホテル・飲食イベントに加え、館内施設を利用した大型イベントの開催や海外メディアの現地視察ツアー誘致の継続、オカダ・マニラへの来場者数の増加を目指してまいります。このように、ゲーミング、非ゲーミング事業が一体となって、施設全体の魅力度を高めるための取り組みを継続してまいります。

③その他

メディアコンテンツ事業においては、App Store・Google Playにて、5月下旬より『沖ドキ! ゴージャス』のシミュレーターアプリの配信を開始する予定です。月額制サービスの「ユニバ王国」及び基本プレイ無料のソーシャルカジノゲーム「スロットストリート」では、サービスの改善、ユーザー満足度の向上に努めてまいります。

(4) 連結業績予想について

2025年12月期の通期連結業績予想につきましては、2025年2月13日に公表した内容から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	23,795	21,205
受取手形及び売掛金	5,804	3,885
有価証券	279	796
商品及び製品	2,453	4,359
仕掛品	17,952	16,642
原材料及び貯蔵品	12,944	13,548
その他	16,481	17,048
貸倒引当金	△854	△845
流動資産合計	78,856	76,640
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	359,800	344,511
建設仮勘定	9,665	7,689
リース資産（純額）	51,515	49,137
その他	36,229	34,616
有形固定資産合計	457,209	435,954
無形固定資産		
その他	2,041	2,112
無形固定資産合計	2,041	2,112
投資その他の資産		
投資有価証券	10,250	10,537
長期預け金	9,735	8,910
関係会社長期預け金	38,351	36,263
関係会社長期未収入金	9,967	8,999
その他	30,567	30,082
貸倒引当金	△5,041	△6,373
投資その他の資産合計	93,830	88,419
固定資産合計	553,082	526,486
繰延資産	857	810
資産合計	632,795	603,937

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,290	6,634
1年内返済予定の長期借入金	948	1,196
未払金	6,020	5,235
未払費用	9,709	7,711
未払法人税等	43	13
賞与引当金	93	327
その他	20,234	18,541
流動負債合計	43,341	39,660
固定負債		
社債	62,913	59,652
長期借入金	62,152	58,316
退職給付に係る負債	1,099	1,171
関係会社長期預り金	14,233	13,457
リース債務	61,420	59,163
その他	17,902	16,559
固定負債合計	219,723	208,320
負債合計	263,064	247,980
純資産の部		
株主資本		
資本金	98	98
資本剰余金	18,828	18,828
利益剰余金	342,614	335,057
自己株式	△7,298	△7,299
株主資本合計	354,241	346,684
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△32	△114
為替換算調整勘定	15,693	9,550
退職給付に係る調整累計額	△170	△164
その他の包括利益累計額合計	15,489	9,271
純資産合計	369,731	355,956
負債純資産合計	632,795	603,937

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)
売上高	34,427	27,280
売上原価	12,854	12,039
売上総利益	21,572	15,240
販売費及び一般管理費	17,549	17,753
営業利益又は営業損失(△)	4,023	△2,512
営業外収益		
受取利息	313	194
受取配当金	8	8
為替差益	5,639	—
持分法による投資利益	—	935
その他	420	107
営業外収益合計	6,381	1,246
営業外費用		
支払利息	1,109	2,300
社債利息	3,345	1,781
支払手数料	2	2
為替差損	—	5,338
貸倒引当金繰入額	—	1,521
持分法による投資損失	230	—
その他	140	109
営業外費用合計	4,828	11,053
経常利益又は経常損失(△)	5,575	△12,319
特別利益		
固定資産売却益	0	26
賠償金収入	—	3,512
特別利益合計	0	3,538
特別損失		
固定資産除売却損	4	0
関係会社株式評価損	149	—
特別損失合計	153	0
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	5,422	△8,781
法人税、住民税及び事業税	49	8
法人税等調整額	1,923	△1,233
法人税等合計	1,972	△1,224
四半期純利益又は四半期純損失(△)	3,450	△7,556
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	3,450	△7,556

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	3,450	△7,556
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△19	△81
為替換算調整勘定	7,318	△6,142
退職給付に係る調整額	△4	6
その他の包括利益合計	7,295	△6,217
四半期包括利益	10,745	△13,774
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10,745	△13,774
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む）は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)
減価償却費	4,332百万円	4,731百万円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2024年1月1日至2024年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	遊技機事業	統合型リゾート (IR)事業		
売上高				
外部顧客への売上高	13,862	20,375	153	34,391
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	179	179
計	13,862	20,375	333	34,570
セグメント利益又は損失(△)	3,929	1,770	114	5,814

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、メディアコンテンツ事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	5,699
「その他」の区分の利益	114
セグメント間取引消去	△153
全社収益(注1)	35
全社費用(注2)	△1,673
四半期連結損益計算書の営業利益	4,023

(注) 1. 全社収益は、主に報告セグメントに帰属しない美術館の収入であります。

2. 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自2025年1月1日 至2025年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	遊技機事業	統合型リゾート (IR) 事業		
売上高				
外部顧客への売上高	8,750	18,378	130	27,259
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	240	240
計	8,750	18,378	370	27,499
セグメント利益又は損失(△)	△1,199	331	179	△688

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、メディアコンテンツ事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	△868
「その他」の区分の利益	179
セグメント間取引消去	△188
全社収益（注1）	20
全社費用（注2）	△1,656
四半期連結損益計算書の営業損失	△2,512

(注) 1. 全社収益は、主に報告セグメントに帰属しない美術館の収入であります。

2. 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(4) 追加情報

該当事項はありません。

(5) 重要な後発事象

該当事項はありません。